



長尾菅原神社

みのり

発行所 枚方・交野地区保護司会
ホームページ
www.hirakata-shakyo.net/hogoshikai/
発行者 清水 和 明

TOPICS

1面	新春のご挨拶
2面	第75回枚方・交野地区「社会を明るくする運動」
3～6面	作文コンテスト優秀作品集
7面	保護司会の活動報告
8面	保護司の荣誉と動静

枚方・交野地区保護司会

会長 清水 和明



新年のご挨拶

ご健勝に、新年をお迎え頂けたこととお慶び申し上げます。さて、新年早々から、重要な報告を致します。大阪保護観察所の所管行事で、例年10月開催の「大阪更生保護大会」ですが、本年は、急遽、枚方市総合文化芸術センターで開催する運びとなりました。皆様におかれましては「ご多用とは存じますが、ご協力の程、宜しくお願いを申し上げます。」

と、ところで昨秋は、石川県の七尾鹿島保護区保護司会と交流し、大変意義ある研修となりました。特に「社会を明るくする運動(以下、社明運動)」の啓発で、広報車を運行する他、運動期間中には「社明運動ステッカー」を自動車に貼る等、一人ひとりに伝える努力に、心打たれました。

一方、2年前の災害で保護司全員が何らかの形で被災された中、「いつも通りに、出来ることから」と前向きに活動してきたとの体験談に感銘を受けました。

少し前の話になりますが、過去に滋賀県の高島保護区保護司会と交流した事を覚えておられる皆さまもおられると思います。今回も同様の感覚を抱きました。保護司同士で話し合い、想いを共有すると、自身の振り返りのみならず、前向きな気持ちになってきます。本年も保護司会の各専門部任せにせず、全保護司が関係各所の皆様と共に心を合わせ、日々、歩んでいきたいと思います。

昨年8月の合同研修会で披露された「薬物乱用防止出前授業」は、想いを共有・形にした取り組みでした。「ダメーゼッタイ」との強い訴えは効果的だと実感しました。担当した保護司の熱意・創意工夫で分かりやすい内容となり、私自身も感動を覚えました。

この他に保護司人材の開拓についてですが、本年も引き続き積極的に呼びかけて頂きたい。年齢も70歳頃から40歳前後の方々まで広げ、ご近所・友人・知人で、保護司の候補者になって頂けそうな方がおられたら、お声かけ下さい。なお、審査過程は従前と変わりません。

むすびに、本年も皆様のお力添え頂きまして「犯罪のない、明るい社会づくり」に努めて参ります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。新年のご挨拶に代えさせて頂きま

大阪保護観察所

所長 山田 浩司



新年のご挨拶

新年おめでとうございます。枚方・交野地区保護司会の皆様におかれましては、平素から、更生保護に関する各活動に一方ならぬ御尽力をいただき、あらためて感謝申し上げます。

皆様御承知のとおり、昨年開催された国連総会において、我が国の保護司制度及び再犯防止のアプローチに関連し、国連加盟国が政策立案等で参照する基準の一つとなる国連準則が決定されました。

世界において高い評価を受け、引き続きリーディングシップを発揮されることを期待される我が国の取組について、本年も枚方・交野地区の皆様とともに、更なる充実を図ってまいりたいと存じます。皆様の変わらぬ御協力をよろしくお願い申し上げます。



ホームページへのアクセスはこちらから

第75回「社会を明るくする運動」



法務省の提唱により、毎年7月を啓発強化月間と定め、犯罪や非行のない、安全で安心して暮らすことのできる社会の実現を目指して全国一斉に展開されている、通称「社明運動」も今回で75回目を迎えました。枚方・交野地区では7月1日に、枚方市総合文化芸術センターで式典を開催しました。

式典

関西外国語大学吹奏楽部

記念講演
「共に生きるということ」
～私がそばに在るから～

● 講師／高部 知子氏
社明運動のスローガンでもある「犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ」について、高部氏は公認心理師・精神保健福祉士の立場で、薬物摂取や飲酒など身近なサイン、「生きづらさ」や精神医学・

心理学的見地のアプローチ、精神疾患・障害などを細やかに説明されました。

また、その大半は、10代の頃に現れること、何よりも大切なのは、ひとりで問題を抱えるのではなく誰かと繋がること、共に在る限りいつかきつと人を信じられる瞬間があること、そして「継続」も大切だと身近な事例で紹介され、参加者が大きくうなづく場面も多くありました。

のオープニング演奏に始まり、交野・枚方両市長をはじめ来賓各位の挨拶、その後保護司会から地域関係団体へテント5張を贈呈しました。



枚方・交野地区「社会を明るくする運動」
「大会に参加して...」
（参加者のアンケート回答より抜粋）

参加者の85%が60～80才代で、64%が「以前から社明を知っていた」と回答。広報紙やチラシを見てきた人は44%、友人・知人に誘われてきた人は13%でした。

（参加者の声・意見など）
● 私は80代の団地住まいで、毎日近所のゴミ拾いや花の手入れをしています。美しい環境づくりは、犯罪や非行の防止につながると思います。協力してくれる友人もいて、大分きれいになりました。



● 再出発に挑んでいるご本人の話も聞いてみたい。感じていること、困っていることなど生の声を聞いて、協力をしたいと思う。
● いかにも犯罪をなくすかも大事だが、それ以上に再犯率を減少させる具体的な方策を考えることが大事だ。
● 街頭パレードが無くなって、一般市民向けの啓発効果が薄れている。
● 若い世代へのアピールが不足している。

主な取組

1. 主要駅6か所での街頭啓発（7月18日）
2. 標語パネルの掲示（通年）
3. 作文コンテストの開催
4. 標語入りクリアファイルの配布（中学3年生対象）
5. 地域関係団体へテントを寄贈（保護司会独自）

第75回「社会を明るくする運動」
チャリティゴルフ大会

去る5月15日（木）奈良県飛鳥カントリー倶楽部において、標記大会が開催され、枚方・交野地区保護司会から7名の参加を得ました。

チームAは京谷名誉会員、野嶋保護司、三島保護司、藤田保護司、チームBは木崎保護司、恵阪保護司、太田保護司の組み合わせでした。

成績発表！
特別表彰：エージシユート賞
（飛鳥カントリー倶楽部認定）

京谷 謙氏（84歳V78）
《エージシユートとは、年齢と同じか、少ないストロークでラウンドすること》

京谷名誉会員は昨年に続きエージシユートで表彰され素晴らしい成績を収められました。今後とも保護司会活動と併せ、枚方・交野地区保護司会のゴルフ同好会「枚保会」にも多数のご参加をお待ちいたしております。
（太田祐月）



第75回社会を明るくする運動

作文コンテスト 優秀作品特集

小学校の部
大阪府推進委員会「ひまわり奨励賞」
枚方市立殿山第二小学校6年 寺東 陸

枚方・交野地区保護司会 会長賞
枚方市立蹉跎東小学校6年 道上 幸花

枚方・交野地区保護司会 優秀賞
枚方市立津田南小学校5年 嶋中 愛花

中学校の部
枚方・交野地区保護司会 会長賞
交野市立第四中学校3年 山下 湊大

枚方・交野地区保護司会 優秀賞
枚方市立第四中学校1年 東山 結衣

大阪府応募総数 …… 24,981作品
小学生の部 …… 8,805作品
中学生の部 …… 16,176作品
枚方市・交野市応募総数 …… 1,032作品
小学生の部 …… 575作品
中学生の部 …… 457作品

本特集記事は赤い羽根共同募金の助成を受けて作成しています。

小学校の部

大阪府推進委員会「ひまわり奨励賞」

人と人をつなぐ大切な言葉

枚方市立殿山第二小学校6年 寺東 陸

「いつも、ありがとう」よくおじいちゃんがよくかけてくれた言葉だ。休日になると毎週お父さん、お母さんと一人暮らしをしているおじいちゃんの家に行き、スーパへ必ず行っていた。そして、いつものように車椅子を押し、おじいちゃんの買い物を手伝った。足腰が悪いおじいちゃんからすれば、とても嬉しかったのかもしれない。時には、「えらいわね」と声をかけてくれる人もい

た。これはほくが小学二年生の頃の思い出だ。おじいちゃんは今もういないけれど、おじいちゃんが言ってくれた「ありがとう」が忘れられないし、嬉しくなる。だから今も困っている人がいる時は、ほくが出来ることはお手伝いをしようと思っている。「ありがとう」と言うのも「ありがとう」と言われるのもほくはどちらも好きだ。

この「ありがとう」と言う思いを伝



えたい人たちが身近にいる。朝、通学路に立って歩いてくれている地域の見守りボランティアの人たちだ。毎日「おはよう」「いつてらっしゃい」と言葉をかけてもらおうと安心して登校できる。もし自分たちだけで登校していたら事故や犯罪に巻き込まれたりしないかと不安な気持ちになるし、自分たち上級生が下級生に注意することが格段に増えて、その負担はとても大きい気がする。感謝の気持ちでいっぱいだ。誰かのために行動出来ることは素晴らしいし、日常のちょっとした人と人とのつながりが犯罪や非行を防ぐことになるのではないかと思う。毎日立ってくれているからほくにとって顔見知りのいざというときに相談出来る大切な人たちだ。そして、この地域の人たちの温かい気持ちは、おじいちゃんとの思い出につながっていくのだ。それは、大切な人のためにほくが出来ることは協力していききたいという気持ちだ。

またそこにインターネットがからんだ犯罪がとて増えている。もっと身近な人に相談することが出来なかったのだろうか大切な気持ちになる。改めて家族や信頼出来る友だちがとて大切だと思ふ。そして、地域の中に顔見知りの人がいることはおたがいのことを気づかえる社会になるのではないか。「おはよう」「いつてきます」「ありがとう」こうした言葉はとて短い言葉だけど人と人をつなぐ大切な言葉だと思ふ。おじいちゃんからかけてもらったあの温かい「ありがとう」の言葉はこれからも忘れることはないだろう。

この「社会を明るくする運動」は自分が出る、または、成しとげられることから一歩ずつ進めていくことが大事だと考える。なぜなら人から押しつけられたり、命令されたりしたことは反発したり、けなしたり、批判したりすることで終わってしまうからだ。だからこそ、おたがいを尊重し、助け合つて進めることで笑顔であふれている街、社会づくりを目指していきたい。

小学校の部

枚方・交野地区保護司会 会長賞

あなたのすてき

枚方市立蹉跎東小学校6年 道上 幸花

私は最近、考えるようになりました。社会を明るくする為には、周りの

人を観察して良い所を見つけてる事が大事なのではないか、と考えるよう



助けてくれる人がいなくて、つらくてさみしい気持ちになってしまったのかなと思います。一人でもそういうつらくてさみしい気持ちになる人が少なくなれば、悪いことをする人も少なくなるとなると思いました。社会を明るくすることは、人と仲良く接したり、助け合ったりして、やさしい気持ちになる人が増えていけば、叶えられるのかなと思います。

中学校の部 ● 枚方・交野地区保護司会 会長賞
小さな思いやり

交野市立第四中学校3年 山下 湊大



「社会を明るくする運動」って言葉を聞くと、私は真っ先に「やさしさ」とか「思いやり」っていう言葉を思い浮かべます。社会を変えるなんて、とても大きなことに感じるけど、実はそんなに難しいことじゃなくて、身近なちょっとしたことの積み重ねならんじゃないかと思うんです。

私は、あいさつはするタイプです。道で誰かに会ったら「おはようございます」や「こんにちは」って言うのは、そんなに苦じゃないです。でも、そこから先がなかなか難しくって。話しかけたり、長く話したりするのはどうも苦手で、いつもあいさつだけで終わってしまいます。だから、近所の人ともどこか距離を感じていました。

私はまだ子どもなので、できることは少ないですが、困っている人がいたら手を差し伸べることで、明るい気持ち、やさしい気持ちになってくれる人が、一人でも多くなる手助けができればうれしです。毎日少しずつでもいいので、心がけて続けていくことが大切だと思うので、がんばっていいこうと思います。

そんな私に変化があったのはある日の朝のことでした。家の前を歩いていたら、近所に住むおばあちゃんとおれ違いました。普段から庭で花の水やりをしたり、ゆっくり散歩したりしている方で、顔は知っていたけれど、ほとんど話したことはありませんでした。その日は、ふと思っ「おはようございます」と声をかけました。すると、おばあちゃんは驚いたように立ち止まり、にっこり笑いなから「おはようさん。今日も元気に行っっておいで」と返してくれました。その言葉は、私の心にすっと入ってきて、なんだか安心した気持ちになりました。

それから、会うたびに会話も増えていきました。「今日は雨が降りそう

だね」とか、「花がきれいだね」とか、ほんの一言の会話です。でも、その短い言葉が私にとっては心の灯のようなものでした。

思いやりって、すごく小さな行動です。けれど、その小さな一歩が誰かの一日を明るく変えることもあります。そして、そうした思いやりが積み重ねること、地域の雰囲気も少しずつ変わっていくのだと思います。

たとえば、友情の表情に気づいて声をかけること。家族に「ありがとう」と伝えること。落ち込んでいる人のそばに黙っていてあげること。

どれも難しいことではなく、簡単なことのように見えるけど、やるからやらないかで大きな差が生まれるんです。

「社会を明るくする運動」は、ただ犯罪を減らすだけの活動ではなく、

中学校の部 ● 枚方・交野地区保護司会 優秀賞
小さな思いやりで社会を明るく

枚方市立第四中学校1年 東山 結衣



今、私たちが暮らす社会は、とても便利で物質的にも豊かです。しかし、一方でいじめや犯罪などの暗いニュースを見聞きすることも多く、沢山の人の心が疲れていて、なんだかとげとげしい空気を感ずることもありません。そんな中、「社会を明るくする運動」は、とても大切な役割を果

たしていると思います。私は、この運動について、みんなが安心して暮らせる社会を作るために、一人一人の思いやりや助け合う心を育てる運動だと思っています。

ある休日の朝、私がクラブ活動のため、学校に向かう途中、大きな荷物を持ってふらふら歩いているおばあ

みんなが安心して暮らせる場所をつくるのが大切なんだと思います。人は誰かに必要とされていると感じられたら、自然と優しくなれます。逆に無関心や孤独は心を閉ざしてしまいう原因になることもあります。

だから、私はこれからも自分のできる小さなことを大切にしたいです。あいさつをきちんとすること、相手のことを気にかけること、困っている人をそっと助けること。そんな思いやりの積み重ねが、きっと社会全体を明るくしていく力になると信じています。正直なところ、一人の力で劇的に変えるのは難しいかもしれませんが、一人ひとりのやさしさが集まれば社会はもつとやさしくなるはずなんです。私はそう信じています。そして、これからもその一員として、小さな思いやりを大切にしていきたいです。

保護司会の活動報告

金沢地域への管外研修記

今回の管外研修は金沢刑務所、湖南学院への旅。研修部の企画により施設参観と地元保護司会との交流会を行うことで大きな成果を挙げることが出来たように思う。

十分な事前学習資料も作成され、私は金沢刑務所グループ。ハードな旅程であったが、十分な充実感を味わうことができた。金沢刑務所では視察に併せて、2班グループに分かれて質疑を行い当該刑務所の現況の課題なりについてかなりつっこんだ話をしてもらった。ここは処遇指標F(外国文化教育)、B(犯罪傾向が進んでいる者)対応ということである。一時公益通報問題の処理でマスコミで記事化されたというところもあったが、受刑者の人権の確保なり更生機会確保について十分に配慮されていることを聞いて、再犯防止という観点から保護司としての立場から質問を行い、所側の真摯な改善

努力に納得と激励もしておいた。

受刑者の人間としての医療対応の大切さも学ぶことが出来た。施設訪問の折りには単に「見た、聞いた、記念写真を撮った」だけではなく十分であり、今後は所側との時々課題について対話学習の必要性も痛感した。

その後、和倉温泉へ宿泊し、相互の情報交換を通じての親睦により非日常的なおつき合いを深めることが出来たように思う。

また開宴に先立って地元「七尾鹿島保護区保護司会」からの平野会長・地元婦人会和太鼓社中による歓迎



演奏も座に一興を添えて頂き感謝感激雨霰！。饗宴終了後の四方山話も延々と続き、午前様でした。

翌日の地元保護司会議も設営して頂き、双方の保護司会の進むべき道について語り合ったことは、大変有意義なことであった。

七尾市保護司会とは、十分な交流と友情が醸し出されたようだ。

会議後は 羽咋市にある能登の至宝といわれる妙成寺の五重塔を参観。バスの道々で震災の復旧の状況も学んだことは、大いに力になった。

本来の管外研修とは、仲間の横の繋がりを確認し見聞を広め、知見を新たにする絶好の機会である。今回は29名という少人数であったが従来から言っているように、このチャンスを最大限に活用すべきである。

コロナ期前あたりから参加人数は減少傾向にあるが、日々勉強という姿勢が必要であり、更なる参加を促したいと思う。

なお、研修部を中心とした各位の工夫と準備に敬意を表したい。(田村正治)

管内研修

11月27日ラポール枚方に於いて、瀧本優子先生によるSST(ソーシャル・スキル・トレーニング)研修とコインマップの実習を行い、自分の人との繋がりが良く分かり、今後の面接に活かしていきたいとの感想でした。

合同研修会

組織部では更生保護に関係する他団体(更生保護女性会・BBS会協力雇用主会)と協力して、年1回合同研修会を開催し、会員相互の見識を高めています。今年、8月21日、交野市保健福祉総合センター(ゆうゆうセンター)において2部制で行なわれました。

1部は、薬物乱用防止推進委員会の方々による「出前授業」のデモンストラーションでした。DVD視聴・〇×クイズ・ロールプレイ等があり、生の授業を彷彿とさせる内容で、その主旨である「薬物乱用はダメ！ゼッタイ！」が観ている側にも伝わってきました。

この活動の為に委員の方々



は事前によりハーサルを何度も繰り返し、お互いに修正点を述べ合い「出前授業」に臨むそうです。当日臨席された保護観察官からも「素晴らしい活動です！」との感想を頂きました。

2部は、更生保護施設盟親施設長・松平正守氏による「愛をもつて明るく社会を」の演題での講演会でした。施設運営の趣旨、活動内容、今後の課題等、詳細に説明して頂きました。施設を利用する対象者に寄り添って悩みや人生相談、就職斡旋他、丁寧に指導している事等拝聴しました。(組織部長 廣田恭孝)

保護司の栄誉

◎瑞宝双光章

高橋 節子

◎法務大臣表彰

祢宜ひとみ

◎全国保護司連盟
理事長表彰

岡本 弘子
加藤 吉和
關 憲親
清水 和明
野嶋 大作
前田 富枝
三木さゆり
谷 喜吉

◎近畿地方更生保護委員会
委員長表彰

立浪 友康
松田 浩
安本 好人
奥野 幸一
北川 大祐

◎近畿地方保護司連盟
会長表彰

西田 政充
林 宏毅
山根 孝子
足立 理明
水嶋 忠雄
金剛 照祐
高島 叔孝
寺本 正敏

◎大阪保護観察所長表彰
【永年従事】

【保護司功労】

大略 栄三
市川萬里子
小林 健人
藤本 正行
濱田 充代

◎大阪保護司会連合会
会長表彰

内海 高広
白井 正樹
相馬 利次
垂水 弘

◎新任保護司

令和7年9月25日付
小川 晃司(中宮)
山小路 崇(津田)

◎退任保護司

令和7年6月30日付
豊田 文夫(樟葉西)
令和7年9月24日付
※浅田 耕一(星田)
※谷 恒雄(交野みらい)
小川 光(牧野)

保護司の動静

悼

※今堀 勇

令和7年9月27日

松宮 隆志

令和7年10月16日

謹んでご冥福をお祈りします

(※印 名誉会員)

おめでとうございます



高橋節子

令和7年度秋の叙勲で瑞宝双光章の栄誉に浴し身に余る光栄に感激しております。

この度の受賞は枚方・交野地区の保護司会そして更生保護に携わる地域の皆様温かいご指導やご支援のおかげと深謝申し上げます。これからも皆様のご懇情に少しでも応えることが出来そうですよう微力ながら地域社会の為に努力したいと思います。

退任のあいさつ



谷 恒雄

昨年9月25日に、夫婦で退任保護司法務大臣感謝状伝達式に出席し、委嘱期間を終えることが出来ました。思い起こせば、自身の見識

を深める絶好の機会と捉え、飛び込んだ保護司の世界。保護司会は多種多様な人材の宝庫で、多くの先輩と会話し意見交換することにより、人間関係がより豊かなものになっていきました。また、個人との関わり、地域への働きかけ等、貴重な人生経験もさせていただきました。皆様に感謝感謝です。

はじめまして！新任です。



小川 晃司



山小路 崇

私は、愛媛県宇和島市のお寺の三男として生まれ育ちましたが、色々なご縁があり、現在は枚方市津田のお寺の住職をしております。

先輩保護司の方々のお誘いを受け、最初はそこまで前向きではありませんでしたが、お話を聞いていくうちに、そいえば父も教師師を四国でしていたなあと、思い出し、私自身も何か社会の中で貢献できたらと思い引き受けることとなりました。どうぞご指導賜りますようお願いいたします。(山小路 崇)

サポートセンター便り

令和7年度より、サポートセンター長に中島秀芳、副センター長に加藤勤が就任致しました。保護司活動での経験を活かしたサポートセンターでの活動に取り組みたいと考えていますのでよろしくお問い合わせ致します。

枚方・交野地区更生保護サポートセンターは、枚方地区・交野地区に更生保護活動の拠点としてそれぞれ設置された企画調整保護司が各10名で運営し輪番制で常駐しており、保護司の処遇活動の支援に加え、更生保護団体との情報交換や住民からの犯罪や非行防止の相談に取り組みんでいます。

保護司の方々には事前予約が必要となりますが、対象者との面接時の利用や保護司会各部会等の打合せも可能ですので休室日を確認の上、ご利用をお願い致します。(中島秀芳)

編集後記

令和8年は60年ぶりの丙午(ひのえうま)の年。変化に揺れる時代だからこそ、若者の心は不安に沈みがちです。「希望とは、暗闇の中で見る光である」(ヘレン・ケラー)。保護司として、迷いの中にある人々にそっと寄り添い、静かな灯となりたい。小さな支えが、明るい社会を照らす希望になることを信じて。(広報部一岡)